令和5年度入学生用カリキュラムマップ

【応用音楽学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA1100	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。											◎	◎	○	
23UMUA1101	初期演習Ⅱ（音楽探求への誘い）	1	前期の「初期演習Ⅰ」での学習を踏まえ、4年間の本学科における教育の体系、一貫性を理解し、より多角的な音楽の研究をとおして全人的発展を遂げ、将来のキャリアパス形成に繋がるよう、今後の本学科における専門教育の目標を達成するよう導く。	①専門領域のより多角的な研究を遂げるためにカリキュラムツリーに基づくカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの理解を深める。 ②専門領域における研究倫理を培うとともに、卒業後の進路も見据えたキャリアパス形成に向けた知識、手段を考える力を身につける。 ③上記の事項を実践し、総合的に成熟した音楽人として成長していく。	○										◎	◎	○	
23UMUA2102	2年次演習	2	音楽人として確実に身につけておくべき事項を中心に課題を与え、「情報収集、思考、討議、分析、プレゼンテーション」という主体的・能動的学習を経験し、グループワークによる協働力を養う。	上級学年において、より専門的な研究を深め音楽芸術を表現・活用していくため、また将来のさまざまな進路に向けて、論理的思考力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	◎									○	○	◎	○	
23UMUA1103	英語A	1	これまでに修得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。	異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。			◎									○		
23UMUA1104	英語B	1	これまでに修得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。	異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。			◎									○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA2105	応用英語ＩＡ	2	ポップミュージックを題材にリスニング力を高め、自然な速度での発話において生じる英語特有の音声変化やリズム・ストレスを体系的に学び、聞き取りの力を養う。英語で洋画を見ながら英語文化圏への関心を深めるとともに、日常会話、さらに文法知識や語彙の強化を目指す。	英語で歌われるポップスやロックのヒット曲を教材として、さまざまなリスニングの課題に取り組みながら、正確に理解するための基本的能力の養成を目指す。なおこの科目は音楽療法の英文を読む際に必要な知識や技能を身につけることを目指す。			◎									○		
23UMUA2106	応用英語ＩＢ	2	この科目は「応用英語ＩＡ」の継続科目である。前期に引き続き英語の発展的基礎学力の向上、英語特有の音声変化やリズムの習得、英語の分析的読解力の養成を目的とする。	自然な速度での発話において生じる英語特有の音や音変化に慣れ、それを言語音としての意味理解につなげ、発話内容を正確に理解するなどの聞き取りに必要な基本的能力の養成を目指す。			◎									○		
23UMUA3107	応用英語ⅡＡ	3	留学を視野に入れ、TOEICやTOEFLで高得点をあげられるよう、英語力の向上を目指していく。	英文を独力で読解する能力を身につける。			◎									○		
23UMUA3108	応用英語ⅡＢ	3	留学を視野に入れ、TOEICやTOEFLで高得点をあげられるよう、英語力の向上を目指していく。	英文を独力で読解する能力を身につける。			◎									○		
23UMUA1109	Oral Communication	1	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して様々な状況での基本的な実用会話ができるようになることを目標とする。			◎									○		
23UMUA1110	情報リテラシーⅠ	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。										◎				
23UMUA1111	情報リテラシーⅡ	1	MS-Excelを発展的に取り扱うことにより、データ処理の知識と技能を習得する。「情報リテラシーⅠ」では十分に行えなかった、MS-Excel/Wordを連携的に取り扱うことにより、専門教育課程の課題やレポート作成とビジネス現場で適用できるデータ処理の基本的技能を習得する。	専門教育で取り扱う各種データをMS-Excelで処理し、レポート作成や卒業論文に役立つレベルを目標とする。										◎				
23UMUA1200	ピアノ実技ＩＡ	1	音楽教育や音楽療法など応用音楽の領域で必要なピアノの演奏技術を習得し、音楽性を養う。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な演奏技術を習得し、音楽的な表現能力を高め、初見能力もアップさせることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎	○	○			○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA1201	ピアノ実技ⅠB	1	応用音楽の領域で必要なピアノの演奏技術を習得し、音楽性を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	音楽教育や音楽療法など、応用音楽の領域で必要なピアノの演奏技術を更に高め、より魅力的な音楽表現を目指す。特にバッハ等ポリフォニー作品および、古典派の作品に取り組み、様式を理解して音楽表現する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎	○	○			○					
23UMUA2202	ピアノ実技ⅡA	2	音楽を用いた分野で必要なピアノの演奏技術を習得する。	音楽教育や音楽療法など、実践の場で必要なピアノの演奏技術を習得するとともに、更なる音楽性を養う。				◎	○	○			○					
23UMUA2203	ピアノ実技ⅡB	2	音楽を用いた分野で必要なピアノの演奏技術を習得する。	音楽教育や音楽療法など、実践の場で必要なピアノの演奏技術を習得するとともに、更なる音楽性を養う。				◎	○	○			○					
23UMUA3204	ピアノ実技ⅢA	3	音楽を用いた分野で必要なピアノの演奏技術に加え、表現力も養う。	音楽教育や音楽療法など実践の場で必要なピアノの演奏技術を習得するとともに、音楽性を養い、音楽的感性を高める。				◎	○	○			○					
23UMUA3205	ピアノ実技ⅢB	3	音楽を用いた分野で必要なピアノの演奏技術に加え、表現力も養う。	音楽教育や音楽療法など、実践の場で必要なピアノの演奏技術を習得するとともに、音楽性を養い、音楽的感性を高める。				◎	○	○			○					
23UMUA4206	ピアノ実技ⅣA	4	音楽を応用する世界で必要なピアノの演奏技術の習得に加えて、より音楽的な表現力を養う。	音楽的な感性を養い、情感豊かな演奏を目指す。				◎	○	○			○					
23UMUA4207	ピアノ実技ⅣB	4	音楽を応用する世界で必要なピアノの演奏技術の習得に加えて、より音楽的な表現力を養う。	音楽的な感性を養い、情感豊かな演奏を目指す。				◎	○	○			○					
23UMUA1208	声楽実技ⅠA	1	声楽の演奏実技は音楽を学び、将来それを生かすために欠かせない。ここでは声楽の演奏技術を養成し、自然な発声を身につけ、正しい音程・リズムで歌えるようにする。また、学校教育や音楽療法等の現場で必要とされるレパートリーを形成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	社会に出た際にそれぞれの分野で役立つ力を育む。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎	○	○			○					
23UMUA1209	声楽実技ⅠB	1	声楽ⅠAに引き続き、声をコントロールし、自然な発声で正しい音程、リズムで歌えるようにする。また、学校教育や音楽療法等の現場で必要とされるレパートリーを更に積み上げ、音楽的な表現を目指す。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	前期で学んだことを更にステップアップし、音楽表現ができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎	○	○			○					
23UMUA2210	声楽実技ⅡA	2	歌唱の訓練を通して声の持つ力の発見につなげる。	１年間で習得した学びを基に、更にレパートリーを広げ、ステップアップを目指す。				◎	○	○			○					
23UMUA2211	声楽実技ⅡB	2	応用音楽学科の学生として、将来音楽療法士、教員などそれぞれの現場にて活動する上で、必要不可欠な声楽の技量向上を主な目的とする。	これまでに履修した「声楽実技ⅠA・B」「声楽実技ⅡA」で培った発声の技術を応用し、今期では無理のない自然な発声によるドイツ歌曲歌唱、および更に高度な弾き歌い課題をこなせるよう、スキルアップの実現を目標とする。				◎	○	○			○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA1212	ソルフェージュⅠA	1	読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を把握し表現できる能力を養う。	音楽を表現するために必要なリズム感、フレーズ感を養い、教職等の現場での実践力を養う。	◎					○								
23UMUA1213	ソルフェージュⅠB	1	前期にひきつづき、読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を把握し表現できる能力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	♯、♭一つまでの旋律に適した伴奏を付けることができ、複数の旋律を聴きわけることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					○								
23UMUA2214	ソルフェージュⅡ	2	音楽活動をするための基本的スタンスを確立する。音楽的基礎能力を各個人の能力に従って順次高めていく。	すべての調の旋律の初見視唱とともに、その旋律への簡単な伴奏付けができるようにする。さらに社会での音楽活動に必要な初見視奏や移調奏などの能力の養成も合わせて行う。	◎					○								
23UMUA1215	和　声　法　A	1	楽典の知識を身につけ、構築の柱の一つである和音の流れ（和声）をベースに楽曲構成、対位的な旋律の構築について考察する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋音楽・文化に関する知識の理解や、演出、表現などを含む伴奏即応力、即興的表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					○								
23UMUA1216	和　声　法　B	1	西洋音楽の中核をなすバッハ・モーツァルト・ベートーヴェンなどの作曲家によって完成された和声技法の基礎を学び、和音の使い方を通して、作曲家の意図を正確につかみとる能力を養う。	西洋音楽・文化に関する知識の理解や、演出、表現などを含む伴奏即応力、即興的表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	◎					○								
23UMUA2217	指　揮　法　I	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						◎								
23UMUA2218	指　揮　法　II	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える方法として「応用的指揮法」を学ぶ。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						◎								
23UMUA2219	即　興　演　奏　A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につけ、音楽療法の即興演奏にも役立てる。	伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。				◎	○				◎					
23UMUA2220	即　興　演　奏　B	2	即興演奏Ａで学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、音楽療法に役立つ即興演奏を充実させるために必要となる基礎力をさらに向上させる。 簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、音楽療法、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。				◎	○				◎					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA4221	作・編曲法A	4	主に歌曲の創作を通して、作曲のプロセスを学ぶことにより基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、応用音楽の現場における指導や自らの演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○					◎							
23UMUA4222	作・編曲法B	4	器楽作品を主な題材に、作品の作られた時代背景にも考慮しながら作品分析を行い、音符や記号、楽語などの情報を含む基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽とはどのようなものかを把握し、応用音楽の現場における指導や自らの演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	○					◎							
23UMUA2223	旋律と和声A	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察する能力を身につける。	○					◎								
23UMUA2224	旋律と和声B	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察する能力を身につける。	○					◎								
23UMUA2225	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業および音楽療法の現場で取り上げられるよう教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるような伴奏および弾き語りをする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りができるようにすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	○	◎								
23UMUA2226	実用楽器入門	2	電子楽器、ギター、打楽器についての幅広い知識と基本的な演奏技術の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持てるようにし、教育セッションや交流の場で応用できる能力を養成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	電子楽器、ギター、打楽器について、基本的奏法を修得する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○			◎	○	○								
23UMUA1227	音楽史I	1	人類が音を取り扱う中で培ってきた音楽の歴史を古代から振り返り、ヨーロッパはバロック音楽まで、日本は中世までの音楽事象の変化を社会の流れと結びつける。	ヨーロッパを中心とする西洋と日本の音楽文化の違いを認識し、それぞれを対照しつつ、体系的な理解を得ることを目標とする。	◎					○								

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA2228	音　楽　史　Ⅱ	2	「音楽史Ⅰ」を受け、ヨーロッパはバロック音楽から古典派音楽へのダイナミックな転換から、日本は近世以降、それぞれ現代までの音楽の歴史を社会の流れと結びつける。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヨーロッパを中心とする西洋と日本の音楽文化の違いを認識し、それぞれを対照しつつ、体系的な理解を得ることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					○								
23UMUA1229	合　唱　Ⅰ	1	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					○	◎								
23UMUA2230	合　唱　Ⅱ	2	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					○	◎								
23UMUA3231	合　唱　Ⅲ	3	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うことを通して社会で協調できる能力の育成を目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					○	◎								
23UMUA1232	学　内　演　奏　Ⅰ	1	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	「演奏者」と「鑑賞者」両者の視点を体得する。	◎						◎			○				
23UMUA2233	学　内　演　奏　Ⅱ	2	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	演奏を真剣に聴く態度を身につけ、その演奏を聴いて主観的に評価できるようにする。	◎						◎			○				
23UMUA3234	学　内　演　奏　Ⅲ	3	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	・多様な演奏を聞き、講義を受講することにより、音楽に対する感性を養い、知識の幅を広げる。 ・演奏者および鑑賞者としてのマナーを習得する。	◎						◎			○				
23UMUA1235	イタリア語表現演習	1	音楽に携わる者に必修のイタリア語の初級文法と発音を徹底する。	1．同じ5つの発音をもつ日本語とイタリア語の音の違いを理解し、発音練習を繰り返すことにより、歌唱に役立てる。 2．イタリア語の初歩文法を理解する。 3．簡単な会話を習得する。			◎											

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA4236	楽器・合奏指導法	4	音楽療法を実践する上で大切なのは、クライエントの多様なニーズや状況に応じた音楽を用いることにより、コミュニケーションできる能力である。クライエントとラポールを形成するための選曲や効果的なアレンジやアンサンブルなど、音楽療法に役立つ技術を習得する。	臨床の場を想定したアンサンブルを通して、クライエントの多様なニーズや状況に応じて音楽を効果的にアレンジし、コミュニケーションできる能力を習得する。				○	◎	○								
23UMUA3237	歌唱・合唱指導法	3	歌やコーラスの愛好者が多い日本において、その専門的な指導者も多方面から求められている。 その現場も内容も多岐にわたり、その指導において広範な知識と魅力的な指導が必要である。 本授業は、魅力ある指導者であるための実践力を培うことを目的とする。	読譜能力の向上、指導を行う対象者の把握（音楽的な事柄）ができることで、社会に出たとき魅力的な指導ができることを目標とする。					○	◎								
23UMUA3238	器　楽　合　奏	3	実際の教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身につける事を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼすことにより、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。 教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎	◎								
23UMUA4239	邦　　楽	4	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけにとどまらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解できるようになることはもちろんであるが、箏の奏法を習得し、演奏できるようになることを最も重要と考え、到達目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎	◎								
23UMUA3240	演　　習	3	音楽療法専修：音楽療法の中でも、特に自分の興味・関心のある領域の研究を行う。４年次の卒業論文に向けて研究テーマを見い出し、各自の問題意識を深め、必要な知識や研究方法を修得する。授業はゼミ形式で行う。 音楽活用専修：音楽活用に関わる基礎的な知識を身につける。	音楽療法専修： ・卒業論文のテーマを設定する。 ・文献検索の方法を知る。 ・授業内においてパワーポイント資料やレジュメを作成して発表する。 ・ディスカッションの方法を学ぶ。 音楽活用専修： ・アートマネジメントを中心とする音楽文化事業の企画・運営について理解し議論できるようにする。 ・音楽教育、音楽の心理学・科学的研究について理解し議論できるようにする。							○	○		◎	◎		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA4241	卒業論文	4	音楽療法専修：卒業論文として音楽療法関係の事例報告または原著論文・文献研究などを執筆する。 音楽活用専修：音楽活用（アートマネジメント・文化政策・音楽教育・音楽心理学等）の分野を対象として卒業論文を執筆する。	音楽療法専修：卒業論文を作成する。 音楽活用専修：卒業論文を作成する。			○				○	○		◎	◎		○	◎
23UMUA1242	音楽療法論Ⅰ	1	音楽療法についての基礎的理解をする。	・音楽療法という領域の概要を知る。 ・音楽の療法的機能について理解する。 ・高齢者の音楽療法についての知識を習得する。 ・子どもの音楽療法についての知識を習得する。		◎			◎						○			
23UMUA1243	音楽療法論Ⅱ	1	音楽療法についての基礎的理解をする。	・医療、福祉、教育の領域における音楽療法の実際について知る。 ・主な音楽療法の理論や方法に関する知識を習得する。 ・対人援助において必要な倫理について知る。		◎			◎						○			
23UMUA1244	発達心理学	1	生涯にわたる発達について学び、音楽療法や様々な発達支援のあり方について理解を深める。	・周産期から老年期といったそれぞれの発達段階の特色と課題について理解する。 ・音楽療法など様々な発達支援へのアプローチのあり方について考える基盤を養う。		◎							◎					
23UMUA2245	音楽心理学	2	音楽を理解するためには、音楽を感じる心の働きを理解しなければならない。本授業では、音楽に関する心理学の知識を身につけることを目的とする。	音楽や音に関する心理学的知見について理解を深めるとともに、演奏や聴取についての新たな見方を身につける。		◎							◎					
23UMUA2246	臨床心理学Ⅰ	2	心理臨床の場において、心に問題を抱えるクライエントへの理解を深めるとともに、言葉や音楽、動き、遊びなど様々なかたちで行われる対話のありようについて学び、実践に役立てる。	・心理療法の基礎となる理論を理解し、技法を学ぶ。 ・心理的に問題を抱えた対象に対する理解を深める。 ・セラピストとクライエントとの信頼関係を築くことについて学ぶ。		◎							◎			○		○
23UMUA3247	臨床心理学Ⅱ	3	心理臨床の場において、心に問題を抱えるクライエントへの理解を深めるとともに、言葉や音楽、動き、遊びなど様々なかたちで行われる対話のありようについて学び、実践に役立てる。	・臨床心理学Ⅰで学んだ内容を基盤としながらも、音楽療法の実践の基盤となる心理療法的理論と技法を学ぶ。 ・セラピストとクライエントとの信頼関係を築くための基盤について学ぶ。		◎							◎			○		○
23UMUA3248	社会福祉論	3	社会福祉論（内容・制度等）について俯瞰する。その上で特に音楽療法士（対人援助職）に求められると思われる社会福祉の基礎知識を学ぶ。	日常生活、社会福祉およびそれに纏わる制度に対し、関心と理解を高める。他の対人援助職と関わる上で、共通認識となる社会福祉の基礎的概念や制度等について、一定の理解を持てるようになる。音楽療法士の実習や実践に有用な知識を持つ。		◎			◎								○	
23UMUA3249	障害児教育	3	音楽療法などの療育指導を有効に行うために、子どもの障害、特に発達障害についての基礎知識を習得する。	療育指導などの現場で出会う障害児・者を支援するためには、その人たちを個別に理解することとともに、障害についての基礎知識が必要である。この授業ではそのような基礎知識を確実に身につけることが目標である。		◎											○	
23UMUA2250	介護論	2	日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。	対象者は高齢者、脳血管障害患者とし、寝返り、起き上がり、立ち上がり、杖歩行などの基本動作における介護方法を理解する。 日常生活動作に関わる食事動作、整容動作、入浴動作、トイレ動作、更衣動作における介護の実際について理解する。		◎												

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA3251	レパートリーラーニング	3	障害者児や高齢者を対象にした音楽療法を実践する上で大切なのは、これまでに歩んできた個々の歴史や背景を知ることである。そのためには、世代に共通した文化を個々の人生の背景として理解することが必要となる。このことを通じて、音楽療法の実践に役立つ技術を学ぶ。	・障害者児から高齢者に至るまで、各世代に共通した文化的背景について理解する。 ・上記を踏まえた音楽療法の実践技術を習得する。								◎		○	◎			
23UMUA2252	ダンスと動き	2	本講義では、音楽療法の周辺領域であるダンス・ムーブメントセラピーおよび表現アートセラピーを学ぶと同時に、ダンス・ムーブメントと音楽、あるいはその他の表現形式を組み合わせたワークの学習によって、より幅広い技法を習得する。	1．安心して学習できる「パーソンセンタード」の環境づくりを学ぶ。 2．からだを通した自己探求を試みる。 3．ダンス・ムーブメントが持つヒーリングの側面を体験する。 4．グループワークの方法を学ぶ。		◎										◎		
23UMUA3253	医学概論	3	人体の構造と機能を関連づけて正しく理解し、正常な状態が病気によって障害された際に起こる変化について学習する。また先端医療の抱える諸問題についても考察する。	人体を構成する臓器系とその生理的働きを理解し、それらの病態（生活習慣病、感染症、難病、精神疾患、先天性疾患、知的障害など）について学習し、更に人口静・動態や疾病の現状など公衆衛生に関する状況、また保健福祉対策の概要についても理解を深める。		◎												
23UMUA3254	音楽療法各論Ⅰ	3	音楽療法の対象分野の中での幼児・児童に関する問題点を学ぶ。 特に幼児期の発達と障害について、音楽と言語の関係とこれまでの研究の紹介などから、臨床面との関連を学ぶ。	・幼児期よりの機能的発達の特徴や障害について理解する。 ・自閉症、AD／HDなどの理解と音楽療法との関連について理解する。 ・発達障害に対する臨床的アプローチを習得する。		◎			◎						○			
23UMUA4255	音楽療法各論Ⅱ	4	幅広い臨床領域の中から、特に精神上（心理面や行動面など）生活を送るうえで影響を受けている状況にあるクライエントを対象とした音楽療法の学習を進める。クライエントを包括的に理解しながら、それに対する音楽療法のアプローチを紹介するなかで実践的知識と技術を主体的に学ぶ。	科目履修後は、授業内容に記載の項目について一定の知識を持ち、理解ができていることを目標とする。		◎			◎						○			
23UMUA4256	音楽療法各論Ⅲ	4	高齢社会を迎えたわが国において、高齢者の心身における様々な症状を理解し、生活や生き方を支えていく援助のあり方とは何かについて考えることは重要である。また、介護が必要な高齢者への援助や、介護予防につながるアプローチのひとつとして適用されている音楽療法について理解する。	・高齢者における音楽療法のニーズや状況について理解する。 ・高齢者への音楽療法によるアプローチを習得する。		◎			◎						◎			
23UMUA3257	臨床医学各論Ⅰ	3	うつ病を15人に一人が経験するとされるなど、精神障害が身近で頻度の高い疾患であること、そして決して特別な病気でないことが最近では広く知られるようになってきている。正しい精神障害に対する知識を深めることを授業目的とする。	音楽療法士資格試験を合格できるだけの精神医学の一般的な知識を得る。		◎												

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA3258	臨床医学各論Ⅱ	3	日本音楽療法学会が出題している音楽療法士（補）認定試験問題を解くために必要な知識のうち、“臨床医学各論Ⅱ”の関連分野である“小児の身体的および認知面の発達と疾患”について、音楽療法士として理解しておくべき内容について講義を行う。	ヒトの身体の解剖生理、小児の身体的、認知的発達の基本的仕組みを理解する。さらに発達からの逸脱、疾病、特に後に障害の原因となる病態について理解できるようになることを目標とする。		◎												
23UMUA3259	音楽療法演習	3	音楽療法の知識や技法を習得し、実践への応用力を養う。	・高齢者への音楽療法の技法を習得する。 ・子どもへの音楽療法の技法を習得する。 ・音楽の諸要素を療法的に活用する方法を知る。 ・多様な症例を想定した素材・教材について研究する。 ・音楽療法実践場面に必要な観察・評価法を学ぶ。					○			◎	◎		○		○	○
23UMUA1260	音楽療法実習Ⅰ	1	様々な音楽療法の対象者や方法、および臨床の実際について、体験学習を通して基礎的理解をする。	・高齢者の音楽療法の実際について知る。 ・子どもの音楽療法の実際について知る。 ・病院における音楽療法の実際について知る。					◎			◎	○	○	◎	○	○	○
23UMUA2261	音楽療法実習Ⅱ	2	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。	・子どもの音楽療法について知る。 ・高齢者への音楽療法について知る。 ・対人援助に必要なマナーや態度を習得する。 ・音楽療法における観察と記録の方法を習得する。					◎			◎	○	○	○	◎	◎	○
23UMUA3262	音楽療法実習Ⅲ	3	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。 主に高齢者に対する音楽療法実践に必要とされる基本的な技能、態度を習得する。	・認知症高齢者への音楽療法の実践方法を学ぶ。 ・アセスメントと目標の設定について学ぶ。 ・音楽療法における適切な音楽の選曲や演奏方法について学ぶ。					◎			◎	◎	○	○	◎	◎	○
23UMUA4263	音楽療法実習Ⅳ	4	専門的な観点から対象者を理解し、自立的に音楽療法の臨床、実践を行う力を養成する。	・対象者へのアセスメントを行う。 ・対象者に合わせた音楽療法の目標を設定し、計画、実施する。 ・適切な音楽を選択し、療法的な効果をもたらせるように活用する。 ・対象者が演奏しやすいように伴奏する。 ・音楽療法の評価を行い、事例レポートを作成する。					◎			◎	◎	○	○	◎	◎	○
23UMUA3264	音楽療法研究法	3	この授業において、前期は文献調査の方法や音楽療法研究の主な手法について理解を深め、自らの研究テーマを探る第一歩とする。またExcelを用いて統計解析とグラフの作成を行い、データ解析の基礎を身につける。 後期は、音楽療法士として自己形成する目標と方法を確認し、音楽療法の実践を事例研究レポートとしてまとめあげる力を養う。	通年の授業を通して以下の到達目標を設定する。 ①文献や資料をもとに音楽療法の研究方法、研究内容を理解し、自らの関心領域を見つける。 ②量的研究について認識を深め、データの集計や基本的な統計解析から音楽療法の効果を客観的に考察する力を身につける。 ③質的研究について、個々の多様な事例の理解を深め、療法的視点で考察できる力を身につける。 ④音楽療法関連分野の質的・量的研究、新しい研究事例の学習を通じて、対象者のニーズに応じた臨床・研究法を提案できるようになる。 ⑤授業全体を通して自ら設定した研究課題について、研究計画が立案できるようになる。										◎	○			◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA4265	音楽療法総論	4	音楽療法と関連分野の総合的な知識の修得、および理解の深化を目的とする。	以下の領域における知識を修得する。 ・音楽療法 ・音楽 ・音楽心理学 ・統計 ・研究法 ・臨床心理学 ・発達心理学 ・基礎医学 ・小論文の書き方		○			○			◎	○	◎	○			○
23UMUA1266	音楽社会学概論	1	「音楽」を通じて社会を見るための広範な知見を得られるようにする。テキストの購読を中心とし、そこから音楽および音楽社会学を取り巻く状況や、関連する学問分野について学ぶ。	身近な音楽と社会の関係を自ら発見できるようにする。	◎										◎			
23UMUA4267	音楽教育学研究	4	本科目では、近年の音楽教育研究において、どのようなアプローチで課題解決を図っているのかを学び取り、学生自らの問題意識と結びつけながら思考する力を養う。	音楽教育学の理論的な思考法を理解し、自らの考えを述べることができる。		○				◎								
23UMUA1268	環境と音楽	1	音楽と、音楽がおかれる環境に関して多角的に学ぶ。	音楽活動が行われる環境について広い視野をもてるようにする。		◎									◎			
23UMUA3269	生涯学習関係論Ⅰ	3	本授業では、生涯学習に関する基礎知識を学び、生涯学習関連施設で展開されるさまざまな取り組みを知ることで、生涯学習の役割を検証するとともに、生涯にわたって学習することの意義を理解するための基礎を養うことを主な目的としている。	・家庭教育、学校教育、社会教育の役割を知るとともに、それらを幅広く包括する生涯学習の基礎知識を得る。 ・生涯学習関連施設の役割や取り組みから、市民参加者との関係性や連携について学ぶ。 ・生涯学習とボランティア活動、市民活動、NPO活動の関連について学び、生涯学習での学びを主体的に社会に生かすことの重要性について考察する力を身につける。						◎		○						
23UMUA3270	生涯学習関係論Ⅱ	3	音楽を中心とする芸術環境と生涯学習・社会教育環境について学び、両分野をコーディネートできる知識・実践を身につける。	生涯学習領域における音楽の役割を理解する。						◎		○						
23UMUA2271	音楽とマルチメディア	2	本授業では、音楽を鑑賞するという行為に注目し、過去からの変遷を学ぶことで、マルチメディアが音楽の聴取スタイルや音楽内容に変化をもたらしたことを知るとともに、マルチメディアを音楽活動の実践に活用するための視点を養うことを主な目的としている。	・マルチメディアの出現によって、音楽の聴取スタイルや音楽内容自体に変化をもたらしたことを理解する。 ・現在身近なものとして使用する音楽再生機器がどのように発展してきたのか、過去からの変遷について知識を得る。 ・マルチメディアを音楽活動に活用するための方法を提案できる力を養う。		◎					◎							
23UMUA4272	表現技術演習	4	コミュニケーション能力と言語能力を高めるための演習である。音楽を媒体として相互理解をするにしろ、それを取り巻く言語による表現力が長けている方がスムーズに本質に近づく。寡黙なミュージシャンではなく、言語表現力の豊かな魅力的な人間になるための実践演習をする。	適格な言語を使って、心のふれあいができるようにコミュニケーション能力を高める。									○		○	◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1．知識・理解			2．技能・表現				3．思考・判断			4．態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4
23UMUA4273	音楽文化創造学	4	本科目では、音楽を中心とする文化的営みについてその歴史、社会的背景について学ぶと同時に、現代社会において音楽による創造的実践について多面的に考察する。音楽は時代や地域によって多様な特色を有するが、主に西洋音楽を対象として社会との関わりで音楽を捉え、その時々の音楽がどう受容されていたのかを考察し、そこから現代社会における音楽の在り方について、自らの考え方を提示できるようにする。	前期：西洋における音楽が社会の中でどのように展開していったのかをその時々の出来事と照らし合わせながら考察できるようにする。その基盤として、主要な音楽作品、音楽家に対する理解を深める。 後期：日本および世界の主要な劇場、音楽団体（オーケストラ、オペラ座など）について学び、そこで実施されているコンサートおよびそれに付随する活動について学ぶ。併せて文化政策と文化行政についても見渡せられるようにする。そこから、現代社会で想定される場面ごとに求められる音楽活動について説明し、企画提案できるようにする。		◎						○						
23UMUA3274	音楽文化事業企画演習	3	音楽や文化に関する事業の企画者として必要な能力を獲得することを目的とする。	音楽事業を実施するにあたって理解すべき事柄を習得し、実践する。	○						◎	○	○		○			
23UMUA4275	音楽活用実習	4	これまでに学習した音楽活用の各領域についてより実践的な能力を身につける。	アーツマネジメントおよび生涯学習に関する関係機関などの状況を具体的に理解し議論できるようにする。	○						◎	◎		○	○	○		
23UMUA3285	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。		○			○									